



会 長 小林 幹夫 青少年奉仕 橋本八右衛門  
副 会 長 道尻 誠助 幹 事 正部家光彦  
クラブ奉仕 道尻 誠助 会 計 佐々木泰宏  
会長エレクト 紺野 広 会場監督 峯 正一  
職業奉仕 妻神 和憲 直前会長 小井田和哉  
社会奉仕 地代所久恭 副 幹 事 松本 剛典  
国際奉仕 中村 稔彦 会計補佐 山村 和芳

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル  
事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内  
電話 (43) 0608 FAX (43) 0661  
e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp  
http://hachinohe-rotary.org/  
会報・広報委員長 峯 正一 同副委員長 荒谷 達也  
同 委 員 廣田 茂 同 委 員 道尻 誠助

国際ロータリーのテーマ — 2022~23 — 八戸ロータリークラブのテーマ  
イマジン ロータリー ロータリーの力を信じよう!

国際ロータリー会長 ジェニファー・ジョーンズ

八戸ロータリークラブ会長 小林 幹 夫

## 8 月 は 会 員 増 強 月 間 で す

第 3 2 3 7 回 例 会 2 0 2 2 . 8 . 1 7

### 会長要件 小井田和哉 直前会長



小林会長は仙台で税理士会の会議です。道尻副会長、正部家副幹事もお休みに急遽代役が回ってきました。

小林会長から会長要件をお預かりしていますので、代読させていただきます。

「皆さんおはようございます。本日はたいへん申し訳ありませんが、仙台にて税理士会の会議があり例会は出ることが叶わず、会長要件を道尻副会長にお願いすることになりました。

またお盆明け早々の例会となり、じゃっかんお休みモードかもしれませんが、本日の例会メニューであるビブリオ形式のロータリーの友を聞きながらモードを切り替えていただければと思います。

### 幹事報告 松本剛典 副幹事

○ロータリー日本財団より、2022年1月1日～6月末日までに寄付された方に「確定申告用寄附金領収証」が届いています。



○地区事務所より青森RC例会についてのご案内

8月25日(木)

12:00~12:30 食事

12:30~13:30 卓話

講師「ロータリーの友」編集長

野崎京子さん

ビジター料 2,500円

### 委員会報告

親睦・会場委員会

増田 敏委員



○ニコニコボックスの報告

・奥様誕生祝 赤澤栄治さん  
澤藤孝之さん 本日ビブリオバトルに出ます。宜しくお願いします。

正部家淳司・夏川戸 齊さん ニコニコデー  
増田 敏さん 早退です。

8月7日(日) 第2回地区補助金事業報告会

植草 務さん

8月7日(日)に八戸市内の各幼稚園から9組の親子さんに参加いただき、南郷島守にて



ブルーベリー狩り、とうもろこし狩り、その後は南郷市民文化ホールで料理教室を開催しました。

雨が心配されましたが天気にはじょうに恵まれ、ブルーベリー狩りに向かう途中で田んぼでカエルを見つけて、子どもたちも喜んでいました。ほとんどの親子が初めてのブルーベリー狩りでブルーベリーをつまみながら、バケツ一杯に採り喜んでいました。またトウモロコシ狩りも持ち帰り2本だけでしたが、自宅でたいへんおいしくいただきました。

料理教室は正部家幹事から子どもたちにいろいろゲームやお話をしました。最後に親子でチャレンジクッキングという料理教室をしました。ひじょうに丁寧にする子、早い子など子どもの性格が出ていて周りで見ている面白かったです。

ほとんどコロナでなかなか社会奉仕活動ができなかったのですが、今回初めてこういう形で参加させていただき、子どもたちの楽しそうな顔、満足そうな喜んでる顔を見て、改めてロータリークラブに入って社会奉仕活動の大切さが身に沁みました。

**ロータリーの友委員会 深澤 隆委員長**  
「ロータリーの友」8月号でビブリオバトル



今回が初回になります。先月からいろんな人に声をかけており、笑顔でハイと言ってくださったり、今回はちょっと、来月は大丈夫などいろいろいらっしゃいます。

去年テーブルごとに代表者を決める方法を取っていましたが、昨今のコロナの関係でテーブルの固定やテーブル内でバトラーをあてるのがなかなか難しいので、完全にわたしの独断と偏見で声をかける作戦にしています。以前はテーブルごとに優勝者のいるテーブルにジュースをとる形式でしたが、個人的に何かご褒美を理事会でご検討いただけるようによろしくお祈りします。

**バトラー**

**荒谷達也さん「危機を乗り越える夢と戦略」**



なぜこれに注目したかというのと、ここに取り上げられた鉄道会社の鳥塚社長さんは以前新聞でも紹介された方でした。なかなか経歴も変わった

方で、大学卒業後に学習塾の職員からスタートし、大韓航空やイギリスの英国航空に勤務、千葉県のいすみ鉄道社長を公募していたところに応募して、採用され社長になった方です。

現在は越後ときめき鉄道という新潟県の第三セクターの社長をやっています。いすみ鉄道社長時代に廃線直前だった鉄道を復活させたということで、再生仕掛け人のような形でメディアで取り上げられていましたので、元々興味がありました。

またつい先日、JR東日本が利用者の少ないローカル線の区間別収支を初めて公表しました。新聞やニュースでご覧になった方も多いと思います。それによると2019年度1日の平均乗客数が2,000人未満の路線が35路線66区間あった。本県では5路線8区間。ご当地のJR八戸線もその中に入っています。66区間の大半の収支率が何と1割前後。赤字が約700億。当然民間の会社なら潰れているか事業を手放しています。公共交通鉄道ということでそうもいかない。

当然その路線をどうするかという論議が出てくるかと思えます。当然住民の方は存続して欲しい。自治体の方もそうだと思います。ただその論議をするにあたって、この特集に出ている鳥塚さんがやってきたことがひじょうに参考になるのではないかと、そういう意味で注目しました。

物語の大半は要はいかにそれを復活させたかという再生の物語です。その中でもキーワード的に少し注目したいのは、鉄道に関する限りこの社長がいうには、もう地元の皆さんがたくさん乗って、たくさん利用してとにかく収支を黒字にしてくださいというお願いの仕方ではもうだめだということです。もう一つのキーワードはいかに自分たちの持つて

いる資産をもう一度再確認して、その上で外部の目から見た価値判断もひじょうに大事だということもおっしゃっています。そのうえで戦略をどう立てるかで、ようやく再生の道はできてくるということをおっしゃっているのがひじょうに印象的でした。

これは決して鉄道だけの話ではなくて、民間企業、団体などでもこれは言えることではないかと思っています。今後いろいろな意味で、こういった危機管理の部分で、こうした考えの人たちのやり方は参考になっていくのではないかと思って、わたしはひじょうにおもしろく読んだ次第です。

ローカル鉄道は大半みんなこういう悩みを抱えていると思います。鉄道はマニアの方だったら来るじゃないですか、廃線直前でも。だからローカル線がただ赤字というのではなく、打ち出し方、これから観光化していくのが一つだと思います。地元のいいコンテンツとして地域の人がもっと盛り上げていく必要はあるんだろうなと思います。

#### 板 慎一さん「思ってたのと違う」



“思ってたのと違う”という話を聞きますと皆さんの頭の中にも何かしら思い浮かぶことがあるのではないのでしょうか。例えば、わたしの回りですと、ゴルフをやる人からは同意を得られると思いますが、グリーン上でパットするとき右に曲がると思って打ったら左に曲がってしまって、かえってカップから離れてしまった。

そういう些細なことから一転して国際情勢に目を向ければ、ウクライナ侵攻をロシア側から見れば当初の目論見とは今はだいぶ違う情勢になっている。こういったこの2つの例にはあまりにも極端な差がありますが思ってたのと違う。いい変えれば期待していた結果とは違うというところでは共通しているかと思っています。世の中はこういうことのほうが多いのかなと感じる次第です。

記事の内容紹介に移りたいと思います。こ

の記事を書かれた方は鎌倉ロータリークラブの会員の久保田英男さんという方です。飲食業界でキャリアを重ねてこられた方です。ですから記事に関しては食べ物、飲み物を題材として三部構成でまとめた内容となっています。

生まれも育ちも鎌倉の方が書かれたこともあり、現在NHKの大河ドラマで放映されている「鎌倉殿の13人」の話から始まります。

“鎌倉殿”といえば源頼朝なのに主人公が北条義時になっているのは何か違う、そういったところから始まります。その当時の時代は四つ足の動物を食べることは禁じられていたが、そういった状況にも関わらずうさぎは二本足で跳ねるから鳥の仲間というこじつけをして食べていた。なので、数え方も今も一羽、二羽と数え方が残っている。さらにひどいこじつけとしては、当時イノシシを“山クジラ”と称して、これも食べていた。こういったことも紹介されています。

この方はかなりNHKが好きなのかもしれませんが、今年の4月まで朝ドラで放映していた「カムカムエブリバディ」に登場する回転焼きの話になります。この回転焼きは全国的には“今川焼”“大判焼き”“お焼き”等々、30通りの呼び方があるそうです。ところてんの食べ方も筆者の暮らす関東では三杯酢で食べるのは普通だが、関西では黒蜜をかけてスイーツとして食べる。こういったことから、自分が思っていた食べ方とは違うという話をされています。

最終壇ではお茶の話になります。お茶といえば日本では緑茶、中国では烏龍茶、インド・欧米等では紅茶が主流ですが、これらの違いは発酵工程で生まれてくるもので、元々は「茶の木」という椿科の葉っぱから作られている。ここは同じです。口に入るときは色も香りも味も違うけれども、元をたどれば一緒、世界は一つなんです。ちょっと飛躍したような話も展開されています。ただ“思ってたのと違う”というか、意外という点ではさらに中国においては生産量、消費量とも一番なのは烏龍茶ではなく、なんと緑茶です。

その他にコーヒーにまつわる話として、ペーパーフィルター発明の話。発明したのはメリタ・ベンツさんというドイツの主婦の方。ベンツは車だけではなくいろんなものを発明するんだと感じた次第です。ホイップ・クリームを乗せたウイナコーヒーがありますが、実はこれはオーストリアのウイーンではこれは通じない。実際にはアイン・シュペナーという一頭立ての馬車を表す意味で本場ではこういう言い方をしている。

そういった話をしながらまとめに入っています。まとめは直接皆さんに一読していただきたいと思いますので、あえてこの場では紹介しません。わたし自身の感想として、実はこの記事を選んだときは中身をほとんど読まずにタイトルだけを見て、冒頭申し上げたような「世の中でよくある話」のことを語っているのかなという勝手な思い込みで選んでしまいましたが、さもあらず、この記事はまさにわたしが思っていたのと違う内容でした。という自身の感想を添えましてご紹介を終わりたいと思います。

#### 澤藤孝之さん「この人を訪ねて」

山川富貴子さん（久居RC）



満面の笑みを浮かべて写っている、見るからになかなかパワフルな方と感じられます。三重県津市の久居ロータリークラブの会員です。1951年生まれです。ちなみにわたしは1953年生まれで今年69歳です。毎回このページで紹介されている方々は素晴らしい方々ですが、今回は特にこの方を推したいというのは、この方は若々しく元気に過ごすためのヒントがこの中にいっぱい入っているのかなと思っています。

この方は学生スポーツで、全国でトップレベルのクラスの選手だったようです。ただケガで挫折します。その後、一念発起して現在の道に進まれ、今はけっこうな規模の会社の社長です。挫折は次のステージへのステップだと、悲観して落ち込んでばかりいないで、頭を切り替えて、次に進むのは素晴らしいと

思います。また新しい道に進まれた後のその後のがんばりや事業拡大していくプロセスもなかなかおもしろいと思っています。

一方でこの方は仕事を一生懸命やっていますが、いろんな活動をされています。本当にいろんなことをやっています。しかもそれぞれが中途半端なものではなく、それぞれが本格的で腰を入れていて、それなりの規模で継続しています。たぶんわたしの想像ですが、この記事に掲載されていないもっといろんなことをやっているのかなと思います。本当にアクティブな方だと思います。

この方は人と係わるのはかなり好きなんだろうと思います。特に若い方と係わるのが好きなようです。自分もそうですが、だんだん年を取ると人と会ったり、特に初めての人とお会いしたり、年代が違う人とお会いするのがちょっと億劫になってきます。やはり若々しく元気に過ごすところがヒントなんだなと思います。さらに感心するのは、この方は御年〇〇才ですが、〇〇才になった現在でもこれからの具体的な目標を持っている。これが夢ではなく目標だということろがすばらしいと思っています。何をやろうとしているかはこれをお読みになっていただければと思います。

わたし自身はこの記事を読んで、とてもちょっとまねできる人ではないと思いましたが、わたしはできる範囲の中でいくばくかでもできるものがあれば、自分も元気に若々しく過ごしたいなと思っていますので、ヒントがあればと思っています。いずれにしても皆さんにもこの記事ぜひ読んでいただいて、山川さんから元気をもらってください。

人の人生になかなか質問もないとは思いますが、一言付け加えます。この方は結婚されて子どもさんもいらっしゃるようです。ただ旦那さんに関する記事はこの中に5行だけ出てきます。この旦那さんは10年くらい前にお亡くなりになっています。こういう奥さんがいるとどういふご夫婦だったのかなと思いつつながら読むのも楽しいのではと思います。